

「京葉線荒川放水路橋りょう」

～首都圏の過密輸送ダイヤ解消を目指した長大橋の建設～

京葉線(東京～蘇我間)で最長の荒川放水路橋りょうは、東京都東部を流れる一級河川荒川の河口を横断する長さ約846mの複線鉄道橋です。

橋りょうの架設工法では、東京湾岸4ヶ所の岸壁上で組み立てられた各ブロックを16,000トン積デッキバージにより現地まで曳航し、1,300トンクレーン2隻の相吊りにより一括架設を行いました。桁を地上で組み立てる地組作業から現地輸送、現地据付までの様子を紹介した貴重な工事記録です。

(鉄道・運輸機構(JR TT)の前身である日本鉄道建設公団が昭和60年に制作)

京葉線は東京湾岸に沿って急速に開発が進められた首都圏のニュータウンや房総方面と都心を直結し、総武線、東西線のラッシュ時の混雑緩和を目的とした重要な通勤新線です。

架設工法の決定にあたっては、架設地点の水深や海上交通量などを考慮し、工期、安全性、経済性を検討した結果、陸上で組み立てたブロックを大型クレーン船で架設する大ブロック一括架設工法を採用しました。



【工事中の様子】



＜本件に関するお問合せ先＞

本社 広報戦略課 TEL 045-222-9101



ウェブサイト



YouTube
公式アカウント



Twitter
公式アカウント